

平成 24 年度
鬼北町の財務諸表
(普通会計)



愛媛県 鬼北町

1 作成上のルール

作成方法

貸借対照表の作成については、「新地方公会計制度実務研究会報告書(平成 19 年度 10 月総務省)」に示されている作成方法「総務省方式改訂モデル」に基づき作成しています。

②対象会計範囲

普通会計(一般会計+特別会計(用品調達特別会計、住宅新築等貸付事業特別会計、ニュータウン鬼北の里特別会計、成川溪谷休養センター特別会計))を対象としています。

③作成基準日

平成 25 年 3 月 31 日を基準日としています。

ただし、平成 25 年 4 月 1 日から 5 月 31 日までの出納整理期間の収支は、基準日までに終了したものとして処理しています。

④基礎数値

昭和 44 年度以降の決算統計データを基礎数値として採用しています。

⑤減価償却の方法

減価償却の方法は、残存価額ゼロの定額法とし、当該固定資産取得又は普通建設事業費支出の翌年度から開始しています。また、耐用年数は次表のとおりとしています。

耐用年数表

決算統計上の区分	耐用年数	決算統計上の区分	耐用年数	決算統計上の区分	耐用年数
総務費		土木費		その他	25
庁舎等	50	道路	48		
その他	25	橋りょう	60		
民生費		河川	49		
保育所	30	砂防	50		
その他	25	都市計画			
衛生費	25	街路	48		
労働費	25	都市下水路	20		
農林水産業費		区画整理	40		
造林	25	公園	40		
林道	48	その他	25		
治山	30	住宅	40		
砂防	50	消防費			
農業農村整備	20	庁舎	50		
その他	25	その他	10		
商工費	25	教育費	50		

2 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表とは

貸借対照表とは、自治体が住民サービスを提供するために保有している財産(資産)と、その資産をどのような財源(負債・純資産)で賄ってきたかを一覧表にまとめたものです。

また、**資産合計額** と **負債+純資産の合計額** が一致し、左右バランスしている表であることから、**バランスシート**とも呼ばれています。

貸借対照表は、下図のように構成されます。

借 方	貸 方
<div style="text-align: center;"></div> <p>① 使う資産 (例: インフラ資産、施設)</p> <p>② 売れる資産、回収する資産 (例: 売却予定土地、貸付金、未収の地方税)</p>	<div style="text-align: center;"></div> <p>将来世代の負担する部分 (例: 地方債、将来支払退職金)</p>
	<div style="text-align: center;"></div> <p>過去又は現世代が負担した部分 (例: 国・県補助金等、地方税)</p>

「資産」には、

- ①自治体が住民サービスを提供するために使用すると見込まれるもの「使う資産」と、
- ②将来、自治体に資金流入をもたらすもの「売れる資産、回収する資産」があります。

「負債」とは、

将来、支払い義務の履行により自治体から資金流出をもたらすものです。負債に計上される主たる項目として地方債があります。「負債」を保有する資産の財源として見た場合、「将来世代が負担する部分」という見方ができます。

「純資産」とは、

資産と負債の差額です。純資産に計上される主たる項目として補助金や一般財源があります。したがって、保有する資産の財源として見た場合、「過去又は現世代が負担した部分」という見方ができます。

貸借対照表
(平成25年3月31日現在)

(単位：千円)

[資産の部]	[負債の部]																																																																																																		
<p>1 公共資産</p> <p>(1) 有形固定資産</p> <table border="0"> <tr><td>①生活インフラ・国土保全</td><td style="text-align: right;">15,642,899</td></tr> <tr><td>②教育</td><td style="text-align: right;">5,081,147</td></tr> <tr><td>③福祉</td><td style="text-align: right;">1,147,735</td></tr> <tr><td>④環境衛生</td><td style="text-align: right;">177,660</td></tr> <tr><td>⑤産業振興</td><td style="text-align: right;">9,212,105</td></tr> <tr><td>⑥消防</td><td style="text-align: right;">168,884</td></tr> <tr><td>⑦総務</td><td style="text-align: right;">4,222,350</td></tr> <tr><td>有形固定資産計</td><td style="text-align: right;">35,652,780</td></tr> <tr><td>(2) 売却可能資産</td><td style="text-align: right;">76,538</td></tr> <tr><td>公共資産合計</td><td style="text-align: right;">35,729,318</td></tr> </table> <p>2 投資等</p> <p>(1) 投資及び出資金</p> <table border="0"> <tr><td>①投資及び出資金</td><td style="text-align: right;">426,143</td></tr> <tr><td>②投資損失引当金</td><td style="text-align: right;">△ 150,163</td></tr> <tr><td>投資及び出資金計</td><td style="text-align: right;">275,980</td></tr> <tr><td>(2) 貸付金</td><td style="text-align: right;">21,975</td></tr> <tr><td>(3) 基金等</td><td></td></tr> <tr><td>①退職手当目的基金</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>②その他特定目的基金</td><td style="text-align: right;">2,092,207</td></tr> <tr><td>③土地開発基金</td><td style="text-align: right;">289,001</td></tr> <tr><td>④その他定額運用基金</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>⑤退職手当組合積立金</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>基金等計</td><td style="text-align: right;">2,381,208</td></tr> <tr><td>(4) 長期延滞債権</td><td style="text-align: right;">52,197</td></tr> <tr><td>(5) 回収不能見込額</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>投資等合計</td><td style="text-align: right;">2,731,360</td></tr> </table> <p>3 流動資産</p> <p>(1) 現金預金</p> <table border="0"> <tr><td>①財政調整基金</td><td style="text-align: right;">1,105,972</td></tr> <tr><td>②減債基金</td><td style="text-align: right;">383</td></tr> <tr><td>③歳計現金</td><td style="text-align: right;">210,270</td></tr> <tr><td>現金預金計</td><td style="text-align: right;">1,316,625</td></tr> <tr><td>(2) 未収金</td><td></td></tr> <tr><td>①地方税</td><td style="text-align: right;">6,496</td></tr> <tr><td>②その他</td><td style="text-align: right;">7,129</td></tr> <tr><td>③回収不能見込額</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>未収金計</td><td style="text-align: right;">13,625</td></tr> <tr><td>流動資産合計</td><td style="text-align: right;">1,330,250</td></tr> </table>	①生活インフラ・国土保全	15,642,899	②教育	5,081,147	③福祉	1,147,735	④環境衛生	177,660	⑤産業振興	9,212,105	⑥消防	168,884	⑦総務	4,222,350	有形固定資産計	35,652,780	(2) 売却可能資産	76,538	公共資産合計	35,729,318	①投資及び出資金	426,143	②投資損失引当金	△ 150,163	投資及び出資金計	275,980	(2) 貸付金	21,975	(3) 基金等		①退職手当目的基金	0	②その他特定目的基金	2,092,207	③土地開発基金	289,001	④その他定額運用基金	0	⑤退職手当組合積立金	0	基金等計	2,381,208	(4) 長期延滞債権	52,197	(5) 回収不能見込額	0	投資等合計	2,731,360	①財政調整基金	1,105,972	②減債基金	383	③歳計現金	210,270	現金預金計	1,316,625	(2) 未収金		①地方税	6,496	②その他	7,129	③回収不能見込額	0	未収金計	13,625	流動資産合計	1,330,250	<p>1 固定負債</p> <table border="0"> <tr><td>(1) 地方債</td><td style="text-align: right;">6,408,825</td></tr> <tr><td>(2) 長期未払金</td><td></td></tr> <tr><td>①物件の購入等</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>②債務保証又は損失補償</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>③その他</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>長期未払金計</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>(3) 退職手当引当金</td><td style="text-align: right;">2,025,557</td></tr> <tr><td>(4) 損失補償等引当金</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>固定負債合計</td><td style="text-align: right;">8,434,382</td></tr> </table> <p>2 流動負債</p> <table border="0"> <tr><td>(1) 翌年度償還予定地方債</td><td style="text-align: right;">958,447</td></tr> <tr><td>(2) 短期借入金</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>(3) 未払金</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>(4) 翌年度支払予定退職手当</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>(5) 賞与引当金</td><td style="text-align: right;">60,365</td></tr> <tr><td>流動負債合計</td><td style="text-align: right;">1,018,812</td></tr> </table> <p>負債合計 9,453,194</p> <p style="text-align: center;">[純資産の部]</p> <p>1 公共資産等整備国庫補助金等 12,349,144</p> <p>2 公共資産等整備一般財源等 21,675,660</p> <p>3 その他一般財源等 △ 3,763,278</p> <p>4 資産評価差額 76,208</p> <p>純資産合計 30,337,734</p>	(1) 地方債	6,408,825	(2) 長期未払金		①物件の購入等	0	②債務保証又は損失補償	0	③その他	0	長期未払金計	0	(3) 退職手当引当金	2,025,557	(4) 損失補償等引当金	0	固定負債合計	8,434,382	(1) 翌年度償還予定地方債	958,447	(2) 短期借入金	0	(3) 未払金	0	(4) 翌年度支払予定退職手当	0	(5) 賞与引当金	60,365	流動負債合計	1,018,812
①生活インフラ・国土保全	15,642,899																																																																																																		
②教育	5,081,147																																																																																																		
③福祉	1,147,735																																																																																																		
④環境衛生	177,660																																																																																																		
⑤産業振興	9,212,105																																																																																																		
⑥消防	168,884																																																																																																		
⑦総務	4,222,350																																																																																																		
有形固定資産計	35,652,780																																																																																																		
(2) 売却可能資産	76,538																																																																																																		
公共資産合計	35,729,318																																																																																																		
①投資及び出資金	426,143																																																																																																		
②投資損失引当金	△ 150,163																																																																																																		
投資及び出資金計	275,980																																																																																																		
(2) 貸付金	21,975																																																																																																		
(3) 基金等																																																																																																			
①退職手当目的基金	0																																																																																																		
②その他特定目的基金	2,092,207																																																																																																		
③土地開発基金	289,001																																																																																																		
④その他定額運用基金	0																																																																																																		
⑤退職手当組合積立金	0																																																																																																		
基金等計	2,381,208																																																																																																		
(4) 長期延滞債権	52,197																																																																																																		
(5) 回収不能見込額	0																																																																																																		
投資等合計	2,731,360																																																																																																		
①財政調整基金	1,105,972																																																																																																		
②減債基金	383																																																																																																		
③歳計現金	210,270																																																																																																		
現金預金計	1,316,625																																																																																																		
(2) 未収金																																																																																																			
①地方税	6,496																																																																																																		
②その他	7,129																																																																																																		
③回収不能見込額	0																																																																																																		
未収金計	13,625																																																																																																		
流動資産合計	1,330,250																																																																																																		
(1) 地方債	6,408,825																																																																																																		
(2) 長期未払金																																																																																																			
①物件の購入等	0																																																																																																		
②債務保証又は損失補償	0																																																																																																		
③その他	0																																																																																																		
長期未払金計	0																																																																																																		
(3) 退職手当引当金	2,025,557																																																																																																		
(4) 損失補償等引当金	0																																																																																																		
固定負債合計	8,434,382																																																																																																		
(1) 翌年度償還予定地方債	958,447																																																																																																		
(2) 短期借入金	0																																																																																																		
(3) 未払金	0																																																																																																		
(4) 翌年度支払予定退職手当	0																																																																																																		
(5) 賞与引当金	60,365																																																																																																		
流動負債合計	1,018,812																																																																																																		
資産合計	39,790,928																																																																																																		
負債・純資産合計	39,790,928																																																																																																		

貸借対照表 注記

※1 他団体及び民間への支出金により形成された資産	①生活インフラ・国土保全	1,277,689 千円
	②教育	16,128 千円
	③福祉	51,880 千円
	④環境衛生	121,217 千円
	⑤産業振興	1,499,331 千円
	⑥消防	2,118 千円
	⑦総務	30,771 千円
	計	2,999,134 千円
上の支出金に充当された財源	①国県補助金等	730,183 千円
	②地方債	342,367 千円
	③一般財源等	1,926,584 千円
	計	2,999,134 千円
※2 債務負担行為に関する情報	①物件の購入等	131,859 千円
	②債務保証又は損失補償 (うち共同発行地方債に係るもの)	584,493 千円 0 千円
	③その他	192,380 千円

※3 地方債残高(翌年度償還予定額を含む)のうち6,960,001千円については、償還時に地方交付税の算定の基礎に含まれることが見込まれているものです。

※4 普通会計の将来負担に関する情報

項目	金額	[内訳]	
		負債計上 【(翌年度償還予定) 地方債・(長期)未払 金・引当金】	注記 【契約債務・ 偶発債務】
普通会計の将来負担額	12,692,413 千円		
[内訳] 普通会計地方債残高	7,367,272 千円	7,367,272 千円	
債務負担行為支出予定額	493,544 千円	0 千円	493,544 千円
公営事業地方債負担見込額	2,359,923 千円		2,359,923 千円
一部事務組合等地方債負担見込額	446,117 千円		446,117 千円
退職手当負担見込額	2,025,557 千円	2,025,557 千円	
第三セクター等債務負担見込額	0 千円	0 千円	0 千円
連結実質赤字額	0 千円		
一部事務組合等実質赤字負担額	0 千円		
基金等将来負担軽減資産	9,996,149 千円		
[内訳] 地方債償還額等充当基金残高	2,710,842 千円		
地方債償還額等充当歳入見込額	325,306 千円		
地方債償還額等充当交付税見込額	6,960,001 千円		
(差引)普通会計が将来負担すべき実質的な負債	2,696,264 千円		

※5 有形固定資産のうち、土地は4,539,919千円です。また、有形固定資産の減価償却累計額は32,957,989千円です。

鬼北町の1世帯当たり・1人当たりの貸借対照表

1世帯当たりの貸借対照表

(H25.3.31 現在 住民基本台帳世帯数 5,177 戸)

借 方	貸 方
<p style="text-align: center;">資 産</p> <p style="text-align: center;">1世帯当たり 768万6千円</p> <p style="text-align: center;">(397億9,092万8千円)</p>	<p style="text-align: center;">負 債</p> <p style="text-align: center;">1世帯当たり 182万6千円</p> <p style="text-align: center;">(94億5,319万4千円)</p>
	<p style="text-align: center;">純資産</p> <p style="text-align: center;">1世帯当たり 586万円</p> <p style="text-align: center;">(303億3,773万4千円)</p>

住民1人当たりの貸借対照表

(H25.3.31 現在 住民基本台帳人口 11,503 人)

借 方	貸 方
<p style="text-align: center;">資 産</p> <p style="text-align: center;">住民1人当たり 345万9千円</p> <p style="text-align: center;">(397億9,092万8千円)</p>	<p style="text-align: center;">負 債</p> <p style="text-align: center;">住民1人当たり 82万2千円</p> <p style="text-align: center;">(94億5,319万4千円)</p>
	<p style="text-align: center;">純資産</p> <p style="text-align: center;">住民1人当たり 263万7千円</p> <p style="text-align: center;">(303億3,773万4千円)</p>

資産の内訳

「資産」は大きく、1 公共資産、2 投資等、3 流動資産 に分類されます。

1 公共資産 357億2,931万8千円

公共資産は、「有形固定資産」と「売却可能資産」から構成されています。公共資産合計は357億2,931万8千円で、資産総額の90%と資産の大部分を占めています。

(1)有形固定資産

「有形固定資産」とは、長期間にわたって住民サービスを提供するために使用されているもので、具体的には、土地、建物、道路、物品などが該当します。ここに計上されている金額は、昭和44年度以降取得したものの累計額から減価償却の累計額を差し引いた後の金額で356億5,278万円となります。

また、「有形固定資産」は、行政目的別に区分されています。道路や公営住宅などのインフラ整備(生活インフラ・国土保全)、農道、観光施設の整備(産業振興)、学校や文化・体育施設などの整備(教育)に関する資産を多く保有していることがわかります。

(2)売却可能資産

「売却可能資産」とは、公共資産のうち、遊休資産や未利用資産など、現在行政目的のために使用されていない資産を表しており、7,653万8千円となります。

2 投資等 27億3,136万円

「投資等」には、公社、第三セクター等への出資金や貸付金、基金、回収期限が到来してから1年以上回収できていない債権(長期延滞債権)などの資産が計上されます。

(1)投資及び出資金

「投資及び出資金」は、4億2,614万3千円で、その主なものは、公社、第三セクター、宇和島地区ふるさと市町村圏基金などへの出資金です。

(2)貸付金

「貸付金」は、2,197万5千円で、その主なものは、住宅新築資金や奨学金などの貸付金です。なお、返済期限が到来しているにもかかわらず回収されていない貸付金は、「未収金」あるいは「長期延滞債権」として別に計上されます。

(3)基金等

「基金」には、特定の目的のために資金を積み立てる「特定目的基金」(資金を使用する際は、積み立てた基金を取り崩して使用する)と、特定の目的のために定額の資金を運用する「定額運用基金」(資金を使用する際は、基金の運用益を使用する)があります。その他特定

目的基金は 20 億 9,220 万 7 千円で、将来の支出に対する財源の備えといえます。

また、「基金等」には、基金のほかに「退職手当組合積立金」も含まれます。職員に対する退職手当を安定的かつ効率的に支給するため退職手当組合に加入しており、この退職手当組合が保有する資産のうち鬼北町の持分が計上されますが、鬼北町の持分は、現在マイナスとなっているため、退職手当組合積立金の計上はありません。

(4) 長期延滞債権

「長期延滞債権」は、納付期限や回収期限から 1 年以上経過しているにもかかわらず、いまだ収入されていない債権をいいます。長期延滞債権は 5,219 万 7 千円で、町税や住宅新築資金貸付金、住宅使用料などの債権の収納(回収)が長期化しています。

(5) 回収不能見込額

「回収不能見込額」は、長期延滞債権のうち、回収不能となることを見込まれる金額を表示しています。長期延滞債権 5,219 万 7 千円のうち、251 万円を回収不能額と見込んでいます。

3 流動資産 13億3,025万円

流動資産には、現金、必要に応じてすぐに使える基金、税金等の未収入金が計上されます。

(1) 現金預金

「現金預金」には、「財政調整基金」、「減債基金」、「歳計現金」があります。「財政調整基金」や「減債基金」は、将来の不測の支出や地方債の償還に備えて積み立てているもので、合計で 13 億 1,662 万 5 千円となります。また、「歳計現金」はその年度の収入から支出を差し引いた残高で、2 億 1,027 万円となります。

(2) 未収金

「未収金」は、その年度の歳入として調定したが、まだ収入がないものを「地方税」と「その他」に区分して表示しています。納付(回収)期限から 1 年以上経過した債権は、長期延滞債権に計上されますので、「未収金」には、滞納期間が 1 年未満の債権のみが計上されることとなります。地方税の未収金 649 万 6 千円と、その他の未収金 712 万 9 千円を合わせた 1,362 万 5 千円ですが、回収不能見込額 109 万 8 千円を控除した 1,252 万 7 千円となります。

負債の内訳

「負債」は、**固定負債**、**流動負債**に分類されます。

1 固定負債 84億3,438万2千円

「固定負債」とは、貸借対照表期日の翌日から1年以降に支払や返済が行われるものをいいます。

(1) 地方債

「地方債」には、翌々年度以降に償還される額が計上されるため64億882万5千円となります。

(2) 長期未払金

「長期未払金」とは、既に物件の引渡しやサービスの提供を受けたものについて、まだ支払っていない額、あるいは債務保証や損失補償の履行が決定した額などです。長期未払金の計上はありません。

(3) 退職手当引当金

「退職手当引当金」は、全職員が当該年度末時点で退職した場合に必要となる退職手当額で、20億2,555万7千円となります。

(4) 損失補償等引当金

「損失補償等引当金」は将来の支出に備えた引当金のことです。損失補償等引当金の計上はありません。

2 流動負債 10億1,881万2千円

「流動負債」とは、1年以内に支払や返済をしなければならないものをいいます。

(1) 翌年度償還予定地方債

「翌年度償還予定地方債」は地方債のうち翌年度償還予定額で、9億5,844万7千円です。したがって地方債残高の総額は、固定負債の「地方債」と流動負債の「翌年度償還予定地方債」を合計した73億6,727万2千円となります。

しかし、この合計額には地方交付税の基準財政需要額に算定される金額も計上されています。交付税に算定される金額は69億6,000万1千円で、差引4億727万1千円が事実上の借金と言えます。

地方債残高		73億6,727万2千円
地方交付税措置される額	69億6,000万1千円	事実上の借金 4億727万1千円

(2)短期借入金

「短期借入金」は収支不足が発生した場合は翌年度の予算から前借りすることになりますが、この前借り額(収支不足額)が「短期借入金」(翌年度繰上充用金)として計上されます。短期借入金の計上はありません。

(3)未払金

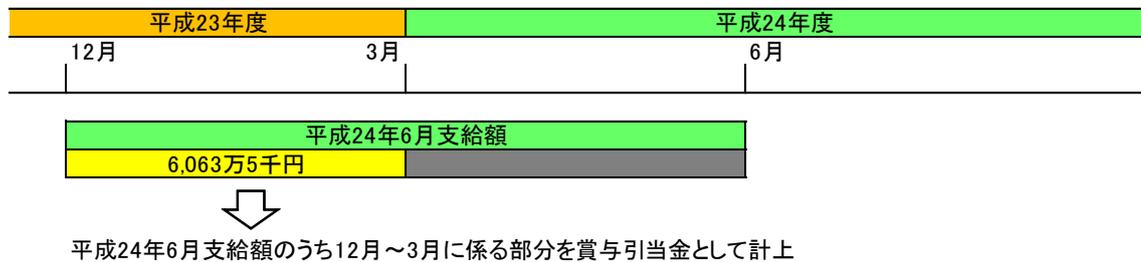
「未払金」は固定負債の長期未払金が翌々年度以降の支出予定額であるのに対し、翌年度支出予定額は「未払金」として計上されます。未払金の計上はありません。

(4)翌年度支払予定退職手当

「翌年度支払予定退職手当」は、職員に支払う退職手当のうち翌年度支払予定額をいいます。したがって、「翌年度支払予定退職手当」と固定負債の「退職手当引当金」とを合計した額が、職員が現時点で退職した場合に必要な退職手当の合計額となります。鬼北町の場合は、退職手当組合に加入しており、鬼北町自体では退職手当を支払いませんので、翌年度支払予定退職手当は計上されません。

(5)賞与引当金

「賞与引当金」とは、翌年度に支給される賞与のうち当年度に発生した部分です。平成 24年度の6月に支給する賞与のうち6,063万5千円が平成23年度に発生していることがわかります。



純資産の内訳

1 公共資産等整備国庫補助金 123億4,914万4千円

「公共資産等整備国庫補助金」とは、住民サービスを提供するための財産を取得した財源のうち国・県から補助を受けた部分です。計上額が大きい場合は、国庫補助金等によって公共資産等を整備してきた部分が多いことがわかります。

2 公共資産等整備一般財源等 216億7,566万円

「公共資産等整備一般財源等」とは、住民サービスを提供するための財産を取得した財源のうち、国・県補助金と地方債(建設)を除いた部分です。

3 その他一般財源等 △37億6,327万8千円

「その他の一般財源等」とは、公共資産形成以外に充てた一般財源です。その他一般財源等は通常マイナスとして表示されますが、これは臨時財政対策債や退職手当引当金など、資産の形成を伴わない負債が存在し、その支払いに対する積立がされてないためです。

(例)

3億円の臨時財政対策債(借金)を発行して、経常支出に充てた場合

資産 0円	負債 地方債 3億円
	純資産 その他一般財源 △3億円

資産 = 負債 + 純資産

4 資産評価差額 7,620万8千円

「資産評価差額」とは、「売却可能資産」の取得価額と売却可能価額との差額や「投資及び出資金」のうち市場価格のある有価証券の取得価額と時価との差額などです。

3 行政コスト計算書

行政コスト計算書とは

行政コスト計算書は、4月1日から翌年の3月31日までの1年間の行政活動のうち福祉活動やゴミの収集といった**資産形成に結びつかない行政サービスを提供する**にあたって人件費や物件費、補助金といったどのような性質の経費が用いられたか、またこのような行政サービス提供の見返りとしての使用料や手数料といった受益者負担が、どの程度あったのかを把握することができる財務書類です。

【経常行政コスト】		総額	生活インフラ 国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	..
人にかかる コスト	1	(1)人件費								
		(2)退職手当引当金繰入等								
		(3)賞与引当金繰入額								
		小計								
物にかかる コスト	2	(1)物件費(消耗品、原材料など)								
		(2)維持補修費								
		(3)減価償却費								
移転収支 的なコスト	3	(1)社会保障給付								
		(2)補助金等								
		(3)他会計等への支出額								
		(4)他団体への公共資産整備補助金等								
その他の コスト	4	(1)支払利息								
		(2)回収不能見込計上額								
		(3)その他行政コスト								
		小計								
	経常行政コスト a									
【経常収益】										
受益者負 担	1	使用料・手数料 b								
	2	分担金・負担金・寄附金 c								
		経常収益 合計 (b + c) d								
	d/a									
(差引)純経常行政コスト a-d										

行政コスト計算書

〔 自 平成24年4月 1日 〕
〔 至 平成25年3月31日 〕

【経常行政コスト】

(単位：千円)

		総 額	(構成比率)	生活インフラ・ 国土保全	教 育	福 祉	環 境 衛 生	産 業 振 興	消 防	総 務	議 会	支 払 利 息	回収不能 見込計上額	その他
1	(1)人件費	1,058,698	16.0%	56,539	132,920	295,818	81,471	145,406	13,134	266,457	66,953			0
	(2)退職手当引当金繰入等	110,576	1.7%	2,715	13,877	36,203	10,027	16,294	0	29,588	1,872			0
	(3)賞与引当金繰入額	60,365	0.9%	1,310	7,713	17,718	4,859	8,084	784	15,885	4,012			0
	小 計	1,229,639	18.6%	60,564	154,510	349,739	96,357	169,784	13,918	311,930	72,837			0
2	(1)物件費	887,802	13.4%	24,963	209,055	61,209	204,518	115,860	16,032	254,852	1,313			0
	(2)維持補修費	9,205	0.1%	3,466	2,315	911	574	1,425	101	413	0			0
	(3)減価償却費	1,537,837	23.2%	469,419	170,561	80,994	16,351	591,064	22,288	187,160				0
	小 計	2,434,844	36.8%	497,848	381,931	143,114	221,443	708,349	38,421	442,425	1,313			0
3	(1)社会保障給付	577,807	8.7%		5,598	572,209	0							0
	(2)補助金等	1,057,666	16.0%	112,531	27,811	252,147	256,653	153,666	183,539	69,680	1,639			0
	(3)他会計等への支出額	978,233	14.8%	47,605	0	588,425	283,518	106,290	0	△ 47,605				0
	(4)他団体への 公共資産整備補助金等	236,465	3.6%	21,815	0	0	5,242	208,848	126	434				0
	小 計	2,850,171	43.1%	181,951	33,409	1,412,781	545,413	468,804	183,665	22,509	1,639			0
4	(1)支払利息	106,246	1.6%									106,246		0
	(2)回収不能見込計上額	△ 1,953	0.0%										△ 1,953	0
	(3)その他行政コスト	0	0.0%					0						0
	小 計	104,293	1.6%	0	0	0	0	0	0	0	0	106,246	△ 1,953	0
経 常 行 政 コ ス ト a		6,618,947		740,363	569,850	1,905,634	863,213	1,346,937	236,004	776,864	75,789	106,246	△ 1,953	0
(構 成 比 率)				11.2%	8.6%	28.8%	13.0%	20.3%	3.6%	11.7%	1.1%	1.6%	0.0%	0.0%

【経常収益】

														一般財源 振替額
1 使用料・手数料 b	225,139		12,488	1,859	77,892	82,504	3,678	84	7,780	0	5,914		0	32,940
2 分担金・負担金・寄附金 c	52,230		2,139	516	21,200	2,781	9,442	0	14,677	0	0		0	1,475
経 常 収 益 合 計 (b + c) d	277,369		14,627	2,375	99,092	85,285	13,120	84	22,457	0	5,914		0	34,415
d/a	4.19%		2.0%	0.4%	5.2%	9.9%	1.0%	0.0%	2.9%	0.0%	5.6%		0.0%	
(差引)純経常行政コスト a-d	6,341,578		725,736	567,475	1,806,542	777,928	1,333,817	235,920	754,407	75,789	100,332	△ 1,953	0	△ 34,415

行政コスト計算書の概要

鬼北町の行政コスト計算書を見てみると4月1日から翌年の3月31日までの1年間の資産形成に結びつかない行政サービスは 66 億 1,894 万 7 千円 がかかったことがわかります。

行政コスト計算書を縦方向の性質別行政コストで見ると、人件費や物件費などといったどのような性質の経費が用いられたか、また、このような行政サービス提供の見返りとしての受益者負担がどの程度あったのかを把握することができます。

【経常行政コスト】

人にかかるコスト	12 億 2,963 万 9 千円	(人件費、退職手当引当金繰入等、賞与引当金繰入額など)
物にかかるコスト	24 億 3,484 万 4 千円	(消耗品、備品購入費、使用料、原材料費など)
移転的支出にかかるコスト	28 億 5,017 万 1 千円	(社会保障給付、補助金など)
その他のコスト	1 億 429 万 3 千円	(支払利息など)

【経常収益】

使用料・手数料	2 億 2,513 万 9 千円
分担金・負担金・寄付金	5,223 万 0 千円

行政コスト計算書を横方向の目的別行政コストで見ると、生活インフラ・国土保全、教育、福祉といった行政目的別にそれぞれどの程度あったかを見ることができます。

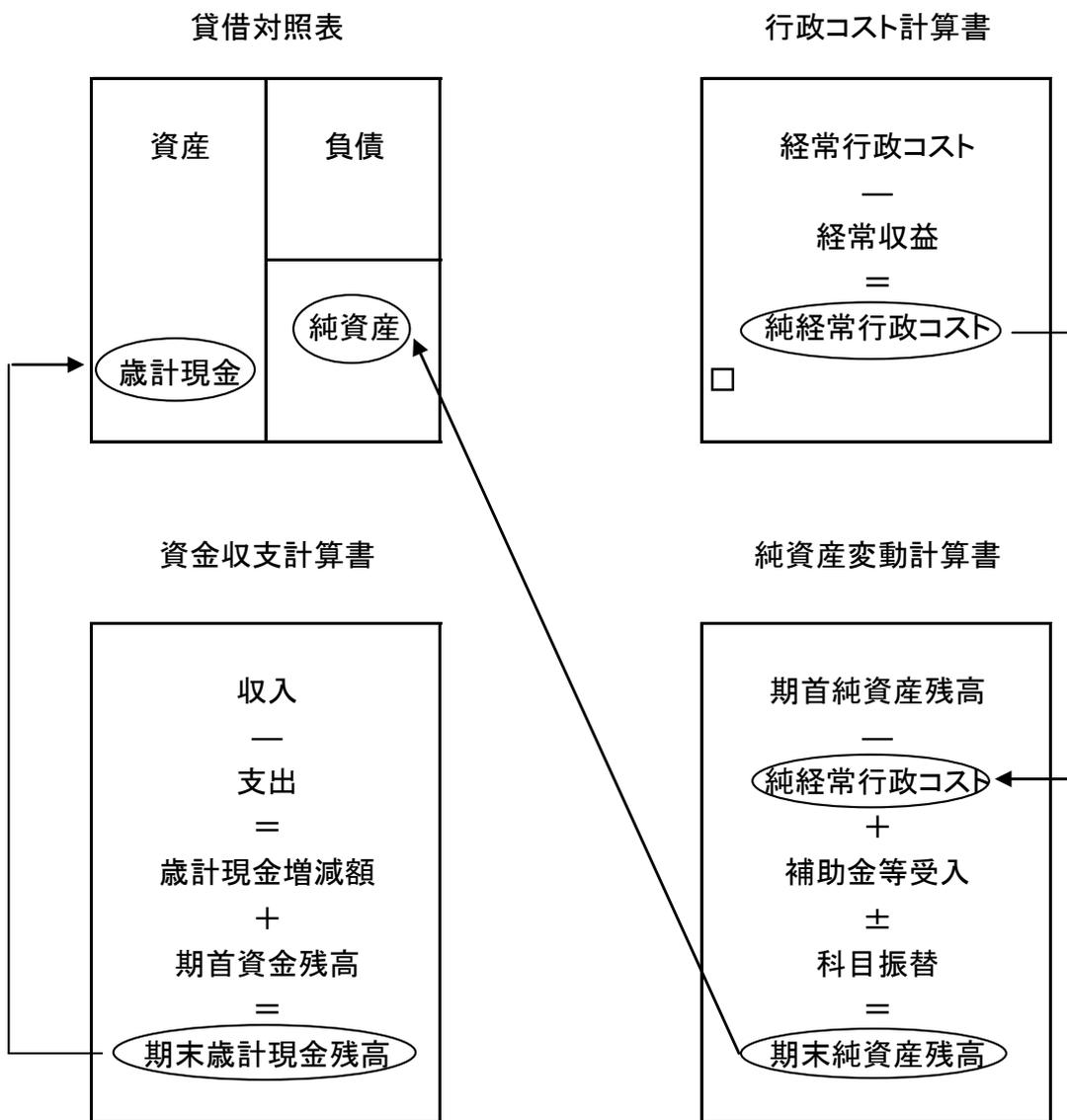
平成24年度は、福祉の 19 億 563 万 4 千円、産業振興の 13 億 4,693 万 7 千円といった行政分野に力が入れられています。

4 純資産変動計算書

純資産変動計算書とは

純資産計算書は、貸借対照表の「純資産の部」に計上されている各数値が1年間でどのように変動したか表している計算書です。純資産の部は、今までの世代が負担してきた部分ですので、1年間で今までの世代が負担してきた部分が増えたのか減ったのかがわかることになります。

また、純資産変動計算書は、今までに見てきた貸借対照表や行政コスト計算書と相関しており、後で説明する資金収支計算書も含めた財務4表の関係を表すと以下のようになります。



純資産変動計算書

〔自 平成24年4月 1日〕
〔至 平成25年3月31日〕

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	30,608,338	12,760,426	21,716,625	△ 3,944,895	76,182
純経常行政コスト	△ 6,341,578		(1)	△ 6,341,578	
一般財源					
地方税	876,621			876,621	
地方交付税	3,941,530			3,941,530	
その他行政コスト充当財源	332,547			332,547	
補助金等受入	940,804	197,752		743,052	
臨時損益					
災害復旧事業費	△ 45,005		(2)	△ 45,005	
公共資産除売却損益	58,927			58,927	
投資損失	△ 34,476			△ 34,476	
損失補償等引当金繰入等	0			0	
科目振替					
公共資産整備への財源投入	(3)		275,955	△ 275,955	
公共資産処分による財源増		0	0	0	0
貸付金・出資金等への財源投入			△ 22,031	22,031	
貸付金・出資金等の回収等による財源増		0	△ 75,881	75,881	0
減価償却による財源増		△ 609,034	△ 928,803	1,537,837	0
地方債償還等に伴う財源振替			709,795	△ 709,795	
(4) 資産評価替えによる変動額	26				26
(5) 無償受贈資産受入	0				0
(6) その他	0				
期末純資産残高	30,337,734	12,349,144	21,675,660	△ 3,763,278	76,208

純資産変動計算書の概要

(1) 純経常行政コストと財源

その他一般財源等の純経常行政コスト 63 億 4,157 万 8 千円に対して、一般財源・補助金等受入が 58 億 9,375 万円と、4 億 4,782 万 8 千円のマイナスとなっています。ただし、「純計上行政コスト」には、町が当年度に支出していない「退職手当引当金繰入等」や当該年度の「減価償却費」も含まれています。平成 24 年度はそれらを含めると、経常収入で純経常行政コストが賄えなかったことを意味します。

(2) 臨時損益

平成 24 年度は、災害復旧事業に 4,500 万 5 千円、公共資産の売却に伴う利益 5,892 万 7 千円及び投資損失 3,447 万 6 千円の臨時的な要因によるコストや収入等が発生しています。

(3) 科目振替

①公共資産整備への財源投入、貸付金・出資金等への財源投入

2 億 7,595 万 5 千円の一般財源が公共資産整備に、2,203 万 1 千円の一般財源が貸付金・出資金等へ投入されました。

②貸付金・出資金等の回収等による財源

貸付金・出資金等の回収等により 7,588 万 1 千円の一般財源が回収されました。

③減価償却による財源増

公共資産の減価償却(価値減少)に伴い一般財源として回収されたことを表しており 15 億 3,783 万 7 千円の減価償却費のうち公共資産等整備国県補助金等 6 億 973 万 4 千円、公共資産等整備一般財源等 9 億 2,880 万 3 千円がそれぞれその他一般財源等に振替となります。

④地方債償還等に伴う財源振替

公共資産等整備の財源として発行された地方債を償還することにより、その他一般財源等から公共資産等整備一般財源等へ 7 億 979 万 5 千円振替える必要があります。

(4) 資産評価替えによる変動

西日本電信電話株式会社の株価の下落が前年より小さいため、時価評価額が 2 万 6 千円の増となります。

(5) 無償受贈資産受入

計上はありません。

(6) その他

計上はありません。

5 資金収支計算書

資金収支計算書とは

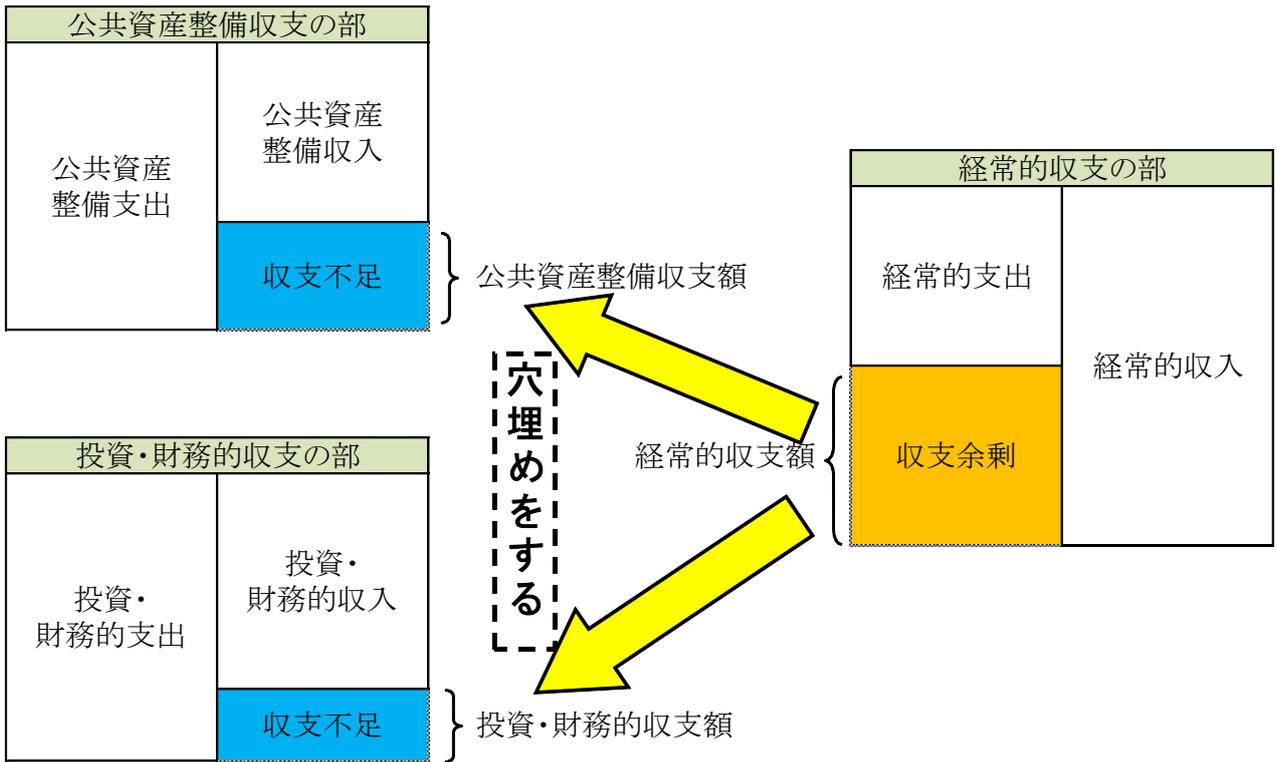
資金収支計算書は、歳計現金(=資金)の出入りの情報を性質の異なる3つの区分(活動)に分けて表示した財務書類です。3つの区分とは、「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」及び「投資・財務的収支の部」です。

- ・経常収支の部 人件費や物件費などの支出と税収や手数料などの収入が計上されており、日常の行政活動による資金収支の状況が表示されます。
- ・公共資産整備収支の部 公共資産の整備などによる支出とその財源である補助金・借金などによる収入が計上されており、いわゆる公共事業に伴う資金の用途とその財源の状況が表示されます。
- ・投資・財務的収支の部 出資、貸付、基金の積立、借金の返済などによる支出とその財源である補助金、借金、貸付金元金の回収などの収入が計上されており、投資活動や借金の返済による資金の出入りの状況が表示されます。

以上の3つの区分で表される資金収支計算書からは、自治体のどのような活動に資金が必要とされ、それをそのように賄ったのかがわかるとともに、歳計現金をどのような性質の活動で獲得し、または使用しているのかがわかります。

経常的収支の部、公共資産整備収支の部、投資・財務的収支の部の関係

資金収支計算書の3つ区分は、経常的収支の部で生じた収支余剰(黒字)で公共資産整備収支の部と投資・財務的収支の部の収支不足(赤字)を穴埋め(補てん)するという関係になります。これを図示すると以下のようになります。



資金収支計算書

〔自 平成24年4月 1日〕
〔至 平成25年3月31日〕

(単位:千円)

1 経常的収支の部	
人件費	1,331,625
物件費	887,802
社会保障給付	577,807
補助金等	1,057,666
支払利息	106,246
他会計等への事務費等充当財源繰出支出	790,976
その他支出	54,210
支出合計 A	4,806,332
地方税	876,660
地方交付税	3,941,530
国県補助金等	585,767
使用料・手数料	187,025
分担金・負担金・寄附金	29,709
諸収入	94,569
地方債発行額	387,188
基金取崩額	22,587
その他収入	210,716
収入合計 B	6,335,751
①経常的収支額 (B-A)	1,529,419

(単位:千円)

2 公共資産整備収支の部	
公共資産整備支出	629,579
公共資産整備補助金等支出	236,465
他会計等への建設費充当財源繰出支出	7,073
支出合計 C	873,117
国県補助金等	355,037
地方債発行額	213,100
基金取崩額	0
その他収入	31,037
収入合計 D	599,174
②公共資産整備収支額 (D-C)	△ 273,943

(単位:千円)

3 投資・財務的収支の部	
投資及び出資金	0
貸付金	2,000
基金積立額	300,016
定額運用基金への繰出支出	47,605
他会計等への公債費充当財源繰出支出	180,184
地方債償還額	1,002,464
長期未払金支払支出	35
その他支出	0
支出合計	1,532,304
国県補助金等	0
貸付金回収額	14,984
基金取崩額	0
地方債発行額	116,500
公共資産等売却収入	58,927
その他収入	52,024
収入合計	242,435
③投資・財務的収支額 (F-E)	△ 1,289,869

①経常的収支額	1,529,419
②公共資産整備収支額	△ 273,943
③投資・財務的収支額	△ 1,289,869
①+②+③	△ 34,393

翌年度繰上充用増減額	0
翌年度歳計現金総減額	△ 34,393
期首歳計現金残高	244,663
期末歳計現金残高	210,270

←貸借対照表 3流動資産 ③歳計現金と一致

6 主な分析指標

① 社会資本形成の世代間負担比率

社会資本形成がこれまでの世代(過去及び現世代)によってか、今後の世代によって負担する割合かをみることができます。

(今後の世代によって負担する割合)

社会資本形成の将来世代負担比率(%) = 地方債残高 ÷ (公共資産 + 投資等) × 100

※ 地方債残高は、社会資本形成に関係のない臨時財政対策債、減収補てん債、減税補てん債を除いた額としています。

地方債残高 43 億 4,699 万 1 千円(64 億 882 万 5 千円(地方債) + 9 億 5,844 万 7 千円(翌年度償還予定地方債) - 30 億 2,028 万 1 千円(臨時財政対策債等))

公共資産等 384 億 6,067 万 8 千円(357 億 2,931 万 8 千円(公共資産合計) + 27 億 3,136 万円(投資等合計))

鬼北町社会資本形成の将来世代負担比率 11.3%

② 歳入額対資産比率

歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、資産が各年度の歳入総額の何年分にあたるかを見ることができます。

歳入額対資産比率 = 資産合計 ÷ 歳入総額

資産合計 397 億 9,092 万 8 千円(貸借対照表)

歳入総額 74 億 2,202 万 3 千円(資金収支計算書の各部の収入合計の総額に期首歳計現金残高)

鬼北町歳入額対資産比率 5.4 年 (平均的な値は 3.0~7.0)

③ 有形固定資産の行政目的割合

貸借対照表に計上された有形固定資産の行政目的別割合をみることにより、行政分野ごとの公共資産形成の比重を把握することができます。

単位: 千円

行政目的	平成24年度	
	金額	構成比
①生活インフラ・国土保全	15,642,899	43.88%
②教育	5,081,147	14.25%
③福祉	1,147,735	3.22%
④環境衛生	177,660	0.50%
⑤産業振興	9,212,105	25.84%
⑥消防	168,884	0.47%
⑦総務	4,222,350	11.84%
合計	35,652,780	100.00%

④ 資産老朽化比率

有形固定資産のうち、土地以外の償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に比して償却資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができます。

$$\text{資産老朽化比率(\%)} = \frac{\text{減価償却累計額}}{\text{(有形固定資産合計 - 土地 + 減価償却累計額)}} \times 100$$

減価償却累計額	329 億 5,798 万 9 千円	(貸借対照表の注記の数値)
有形固定資産合計	356 億 5,278 万円	(貸借対照表の有形固定資産計の数値)
土 地	45 億 3,991 万 9 千円	(貸借対照表の注記の数値)

鬼北町資産老朽化比率 51.4% (平均的な値は 35~50)

⑤ 受益者負担率

行政コスト計算書における経常収益は、いわゆる受益者負担の金額であるため、経常収益の行政コストに対する割合を算定することで、受益者負担割合を算定することができます。

$$\text{受益者負担比率(\%)} = \frac{\text{経常収益}}{\text{経常行政コスト}} \times 100$$

経常収益	2 億 7,736 万 9 千円	(行政コスト計算書)
経常行政コスト	66 億 1,894 万 7 千円	(行政コスト計算書)

鬼北町受益者負担比率 4.2% (平均的な値は 2~8)

⑥ 行政コスト対公共試算比率

行政コストの公共試算に対する比率を見ることで、資産を活用するためにどれだけのコストがかけられているかあるいはどれだけの資産でどれだけの行政サービスを提供しているかを分析することができます。

$$\text{行政コスト対公共資産比率(\%)} = \frac{\text{経常行政コスト}}{\text{公共資産}} \times 100$$

経常行政コスト	66 億 1,894 万 7 千円	(行政コスト計算書)
公共資産合計	357 億 2,931 万 8 千円	(貸借対照表)

鬼北町行政コスト対公共資産比率 18.5% (平均的な値は 10~30)

⑦ 行政コスト対税率等比率

純経常行政コストに対する一般財源等の比率を見ることによって、当年度に行われた行政サービスのコストから受益者負担分を除いた純経常行政コストに対して、どれだけが当該年度の負担で賄われたかがわかります。比率が 100%を下回っている場合は、翌年度以降へ引き継ぐ資産が蓄積されたか、あるいは翌年度以降へ引き継ぐ負担が軽減されたことを表しています。

$$\text{行政コスト対税率等比率(\%)} = \frac{\text{純経常行政コスト}}{\text{一般財源} + \text{補助金等受入(その他一般財源等の列)}} \times 100$$

純経常行政コスト	63 億 4,157 万 8 千円	(行政コスト計算書)
一般財源	51 億 5,069 万 8 千円	(純資産変動計算書)
補助金等受入(その他一般財源等の列)	7 億 4,305 万 2 千円	(純資産変動計算書)
<u>行政コスト対税率等比率 107.6%</u>		

⑧ 地方債の償還可能年数

自治体の抱えている地方債を経常的に確保できる資金で返済した場合に何年で返済できるかを表す指標で、借金の多寡や債務返済能力を測る指標です。

$$\text{地方債の償還可能年数(年)} = \frac{\text{地方債残高}}{\text{経常的収支額(地方債発行額及び基金取崩額を除く)}}$$

地方債残高	73 億 6,727 万 2 千円	(貸借対照表)
経常的収支額	15 億 2,941 万 9 千円	(資金収支計画書)
<u>地方債の償還可能年数 4.8 年</u> (平均的な値は 3~9)		